

Title	全国家族調査データを用いた1999-2009年の日本の家族の総合的研究
Sub Title	Comprehensive studies of Japanese family during 1999-2009 by national family research of Japan dataset
Author	稲葉, 昭英(Inaba, Akihide) 田淵, 六郎(Tabuchi, Rokurō) 筒井, 淳也(Tsutsui, Junya) 保田, 時男(Yasuda, Tokio) 松田, 茂樹(Matsuda, Shigeki) 西村, 純子(Nishimura, Junko) 田中, 重人(Tanaka, Shigeto) 永井, 暁子(Nagai, Akiko) 西野, 理子(Nishino, Michiko) 嶋崎, 尚子(Shimazaki, Naoko) 平澤, 和司(Hirasawa, Kazushi) 荒牧, 草平(Aramaki, Sōhei) 松井, 真一(Matsui, Shinichi) 裴, 智恵(Bae, Jihey) 金, 貞任(Kim, Jung Nim) 施, 利平(Shi, Liping) 菅野, 剛(Sugano, Tsuyoshi) 大日, 義晴(Dainichi, Yoshiharu) 田中, 慶子(Tanaka, Keiko) 大和, 礼子(Yamato, Reiko) 鈴木, 富美子(Suzuki, Fumiko) 福田, 巨孝(Fukuda, Nobutaka) 中西, 泰子(Nakanishi, Yasuko) 品田, 知美(Shinada, Tomomi) 乾, 順子(Inui, Junko) 島, 直子(Shima, Naoko) 澤口, 恵一(Sawaguchi, Keiichi) 松信, ひろみ(Matsunobu, Hiromi) 内田, 哲郎(Uchida, Tetsurō) 井田, 瑞江(Ida, Mizue) 堀, 真紀子(Hori, Makiko) 賀茂, 美則(Kamo, Yoshinori) 余田, 翔平(Yoda, Shōhei) 三輪, 清子(Miwa, Kiyoko) 根岸, 弓(Negishi, Yumi) 近兼, 路子(Chikakane, Michiko) 吉武, 理大(Yoshitake, Rio)
Publisher	
Publication year	2016
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2015.)
Abstract	<p>日本を代表する28人の家族研究者による計19本の論文を収録した『日本の家族 1999-2009 : 全国家族調査(NFRJ)を用いた計量社会学』を2016年6月末に東大出版会から刊行予定である。本書は、日本家族社会学会によって実施・作成された第3回全国家族調査(NFRJ08)データを中心に、NFRJ98, NFRJ03などのデータも併用しながら1999-2009年の時期を中心とした日本の家族の構造と変容について、各研究者がさまざまな角度から計量的な分析を行ったものである。定位家族へ依存が高まる一方で、</p> <p>そうした家族を持たない人の不利が顕在化してきたことが全体として読み取れる。</p> <p>We publish book entitled 'Families in Japan, 1999-2009 : Based upon quantitative analyses of National Family Research of Japan (NFRJ)', which is consisted of nineteen papers written by twenty eight representative family researchers in Japan, in June 2016 from University of Tokyo Press (now printing).</p> <p>We analyzed structures and changes of families in Japan mainly around preiod between 1999 to 2009, based upon National Family Reserach of Japan 2008 data set(NFRJ08), with NFRJ98 data set</p>

	and/or NFRJ03 data set. Thorough the analyses, we can see the trend that people depend more on one's family of orientation during these period, though we can also see the disadvantages of people who do not have such resourceful family relationships gradually increasing.
Notes	研究種目 : 基盤研究(C)(一般) 研究期間 : 2013 ~ 2015 課題番号 : 25380683 研究分野 : 社会学
Genre	Research Paper
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_25380683seika

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380683

研究課題名(和文) 全国家族調査データを用いた1999-2009年の日本の家族の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive studies of Japanese family during 1999-2009 by National Family Research of Japan dataset

研究代表者

稲葉 昭英 (Inaba, Akihide)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：30213119

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本を代表する28人の家族研究者による計19本の論文を収録した『日本の家族 1999-2009：全国家族調査(NFRJ)を用いた計量社会学』を2016年6月末に東大出版会から刊行予定である。

本書は、日本家族社会学会によって実施・作成された第3回全国家族調査(NFRJ08)データを中心に、NFRJ98、NFRJ03などのデータも併用しながら1999-2009年の時期を中心とした日本の家族の構造と変容について、各研究者がさまざまな角度から計量的な分析を行ったものである。定位家族へ依存が高まる一方で、そうした家族を持たない人の不利が顕在化してきたことが全体として読み取れる。

研究成果の概要(英文)： We publish book entitled 'Families in Japan,1999-2009: Based upon quantitative analyses of National Family Research of Japan (NFRJ)', which is consisted of nineteen papers written by twenty eight representative family researchers in Japan, in June 2016 from University of Tokyo Press (now printing).

We analyzed structures and changes of families in Japan mainly around preiod between 1999 to 2009, based upon National Family Reserach of Japan 2008 data set(NFRJ08),with NFRJ98 data set and/or NFRJ03 data set.

Thorough the analyses, we can see the trend that people depend more on one's family of orientation during these period, though we can also see the disadvantages of people who do not have such resourceful family relationships gradually increasing.

研究分野：社会学

キーワード：家族構造 家族変動 全国家族調査 ライフコース NFRJ 日本家族社会学会 家族関係 家族社会学

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本家族社会学会は、研究者が利用可能な日本の家族についての大規模確率標本データの作成の必要を考え、1999年に第1回全国家族調査(NFRJ98)を実施した。日本に居住する28-77歳の男女約1万人を対象として実施されたこの調査は、家族についての態度・意見、夫婦・親子・きょうだいなどの関係の実状、ライフコース経験やネットワークなど豊富な質問項目を盛り込んでおり、多くの研究者による計量的な家族研究を可能にした。その後全国家族調査は第2回(NFRJ03、2004年)、第3回(NFR08、2009年)と5年おき実施され、日本の家族研究にとって代表的なデータとしての位置を確立するに至っている。

これら3回の調査は同一の項目を用いながら時点間の変化をとらえる反復横断調査のデザインをとっている。このため、第3回調査の完了と同時に、過去2回のデータも併用しながらこの期間中の家族の構造、変化をとらえようとするプロジェクトが開始された。

(2) 第3回全国家族調査実施直後の2010年4月に、このデータを利用する研究会が組織された。メンバーは広く日本家族社会学会の会員から募り、40名の研究者が参加、1年間かけて研究会を重ねながらそれぞれが研究論文をまとめた。これがNFRJ08第2次報告書で、2011年9月に4冊が刊行された。

(3) 全国家族調査の成果をひろく社会に還元するために、NFRJ08第2次報告書に収録されている論文をもとに、これをより精緻化させて書籍化することが検討された。これが本プロジェクトである。メンバーには2次報告書所収論文執筆者の中から31名を選出し、単独ないし共同で報告書論文を土台にしながらから研究を進めることとなった。

2. 研究の目的

(1) NFRJ08データを中心としつつ、他のデータも併用しながら、1999-2009年の時期を中心に日本の家族の構造および変化を計量的に分析する。

(2) 以上の分析結果をわかりやすい形で書籍として刊行する。

3. 研究の方法

(1)NFRJ08第2次報告書に収録された論文をもとに、本プロジェクトに参加する研究者を選出し、年2回の研究会を実施しながら論文の作成および書籍化に取り組む。

(2)NFRJデータの特徴である、世帯から複数の成員の情報が得られる点を考慮して、分析においては可能な限りマルチレベルモデルを使用する。また、既存の諸研究との関連を明確にするために、体系的なレビューを各研究者に求める。

(2)稲葉昭英、保田時男、田渕六郎、田中重人の4名が幹事として研究会の世話役となり、各論文について査読およびコメントを行う。

また、マルチレベルモデルの利用については保田が補佐・支援を行う。

4. 研究成果

(1) 当初は23本の論文の収録を予定していたが、4本の論文が期限を超過し、不採択となった。計19本の論文を収録した「日本の家族 1999-2009:全国家族調査(NFRJ)を用いた計量社会学」を2016年6月24日付にて東京大学出版会から刊行する。

(2) 19本の論文は以下である。

- 1 稲葉昭英・保田時男・田渕六郎・田中重人「2000年前後の家族動態」
- 2 筒井淳也・永井暁子「夫婦の情緒関係—結婚満足度の分析から—」
- 3 西野理子・中西泰子「家族についての意識の変遷：APC分析の適用によるコーホート効果の検討」
- 4 大日義晴・菅野剛「ネットワークの構造とその変化：「家族的関係」への依存の高まりとその意味」
- 5 荒牧草平・平沢和司「教育達成に対する家族構造の効果—「世代間伝達」と「世代内配分」に着目して—」
- 6 福田亘孝「現代日本における子どもの性別選好」
- 7 稲葉昭英「離婚と子ども」
- 8 松田茂樹「父親の育児参加の変容」
- 9 西村純子・松井真一「育児期の女性の就業とサポート関係」
- 10 鈴木富美子「育児期のワーク・ライフ・バランス」
- 11 品田知美「子どもへの母親のかかわり」
- 12 田中慶子・嶋崎尚子「中期親子関係の良好度：発達の過程と相互援助」
- 13 施利平・金貞任・稲葉昭英・保田時男「親への援助のパターンとその変化」
- 14 保田時男「成人期のきょうだい関係：交流頻度のマルチレベル分析」
- 15 大和礼子「公的介護保険導入にともなう介護期待の変化」
- 16 乾 順子「有配偶女性からみた夫婦の家事分担」
- 17 内田哲郎・斐智恵「ワーク・ファミリー・コンフリクト—職業生活領域から家族生活領域への葛藤(WFC)を中心に」
- 18 島 直子・賀茂美則「有配偶女性の就労と性別役割分業意識」
- 19 保田時男「マルチレベル分析による家族研究」

(3) 本書から明らかにされたことがらは多岐にわたるが、簡単に要約すれば、以下のようなものとなる。

- ① 世帯内の夫婦関係や親子関係に総じて大きな変化が観察されるわけではないが、全般的に定位家族への依存は大きくなっている。
- ② 家事や育児のパターンはそれほど大きな変化は見られず、性別役割分業の規定性が強いが、夫の参加が妻の満足度に影響を与えるなど、変化の端緒が観察される。
- ③ 親子関係、きょうだい関係は総じて

男性より女性に良好であり、女性を介して関係が維持される側面がある。

(4)本書はNFRJ98 データを分析する論文集である渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子編『現代家族の構造と変容』(2004年)の続編ともいえるものである。前書は日本の家族研究にとってはじめての計量的な研究の論文集として、学説史上大きな意義を持った。本書の意義については今後の判断を待ちたいが、日本家族社会学会などで書評セッションなどを企画し、その評価を待ちたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

本プロジェクトはもともと書籍を刊行することを目的としたものであるため、参加メンバー個々人の業績は本書籍に関連したものに限定する。

[雑誌論文] (計 4 件)

- 1 稲葉昭英, 2015 「ライフサイクルと貧困: recursive regression を用いた母子世帯所得の推定」『社会イノベーション研究』10(2): 41-57. 査読なし
- 2 稲葉昭英, 2014 「社会調査と利益相反問題」『社会と調査』12:13-19. 査読なし
- 3 稲葉昭英, 2013 「わが国における家族の動向とその将来について」『家庭裁判月報』65 巻 6 号: 1-53. 査読あり
- 4 田淵六郎, 2013 「家族研究と「親密性」」『上智大学社会学論集』37:17-34. 査読なし

[学会発表] (計 6 件)

- 1 Inaba, Akihide and Yoshida Takashi, 2014. "Social stratification and the formation of the single household formation in Japan", 18th annual meeting of International Sociological Association. Yokohama, Japan (2014.07.19)
- 2 Inui, Junko, 2014. "Female Employment and the Socioeconomic and Family Factors in Japan", 18th annual meeting of International Sociological Association. Yokohama, Japan (2014.07.19)
- 3 Nishimura, Junko, 2014. "Re-entering the labor market after childbirth among Japanese women. 18th annual meeting of International Sociological Association. Yokohama, Japan (2014.07.19)
- 4 Hori, Makiko, 2014. "Gender differences in happiness: the effect of marriage, employment, and parenthood in 33 countries. 18th annual meeting of International Sociological Association. Yokohama, Japan (2014.07.17)
- 5 Kamo, Yoshinori and Akiko Kamesaka, 2014. "Examining the Structure of Happiness and Life Satisfaction in Japan Utilizing a Large Scale National Survey." 18th annual meeting of International Sociological Association. Yokohama, Japan (2014.07.17)
- 6 稲葉昭英, 2013 「家族構造と中学生の教育ア

スピレーション(1): セレクション効果なのか?」第 86 回日本社会学会大会, 於: 慶應義塾大学三田キャンパス(東京、港区、2013.10.12)

[図書] (計 2 件)

1 稲葉昭英・保田時男・田淵六郎・田中重人 編『日本の家族 1999-2009: 全国家族調査(NFRJ)を用いた計量社会学』東京大学出版会, 392 頁, 2016 年(現在印刷中)。1 章、7 章、13 章を執筆。

2 Tanaka, Shigeto (ed.) *A quantitative picture of contemporary Japanese families.* Tohoku University Press, 375p. 2013.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

<http://nfrj.org/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

稲葉 昭英 (INABA, Akihide)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号: 30213119

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者

田淵 六郎 (TABUCHI, Rokuro)
上智大学・総合人間学部・教授
研究者番号: 20285076

筒井 淳也 (TSUTSUI, Junya)
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号: 90321025

保田 時男 (YASUDA, Tokio)
関西大学・社会学部・教授
研究者番号: 70388388

松田 茂樹 (MATSUDA, Shigeki)
中京大学・現代社会学部・教授
研究者番号: 00706799

西村 純子 (NISHIMURA, Junko)
明星大学・人文学部・教授
研究者番号: 90350280

田中 重人 (TANAKA, Shigeto)
東北大学・文学研究科・准教授
研究者番号: 60294013

永井 暁子 (NAGAI, Akiko)
日本女子大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：10401267

西野 理子 (NISHINO, Michiko)
東洋大学・社会学部・教授
研究者番号：50257185

嶋崎 尚子 (SHIMAZAKI, Naoko)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：40216049

平澤 和司 (HIRASAWA, Kazushi)
北海道大学・文学研究科・教授
研究者番号：30241285

荒牧 草平 (ARAMAKI, Sohei)
日本女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号：90321562

松井 真一 (MATSUI, Shinichi)
愛知学院大学・教養部・専任講師
研究者番号：00706989

婁 智恵 (BAE, Jihey)
桜美林大学・リベラルアーツ学群・准教授
研究者番号：90645219

金 貞任 (KIM, JungNim)
東京福祉大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：00364696

施 利平 (SHI, Liping)
明治大学・情報コミュニケーション学部・教授
研究者番号：20369440

菅野 剛 (SUGANO, Tsuyoshi)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：10332751

大日 義晴 (DAINICHI, Yoshiharu)
日本女子大学・人間社会学部・助教
研究者番号：00732968

田中 慶子 (TANAKA, Keiko)
公益財団法人家計経済研究所・次席研究員
研究者番号：50470109

大和 礼子 (YAMATO, Reiko)
関西大学・社会学部・教授
研究者番号：50240049

鈴木 富美子 (SUZUKI, Fumiko)
東京大学・社会科学研究所・助教
研究者番号：60738391

福田 亘孝 (FUKUDA, Nobutaka)
東北大学・教育学研究科・教授

研究者番号：40415831

中西 泰子 (NAKANISHI, Yasuko)
相模女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：50571650

品田 知美 (SHINADA, Tomomi)
城西国際大学・福祉総合学部・准教授
研究者番号：00573049

乾 順子 (INUI, Junko)
大阪経法大学・法学部・助教
研究者番号：00716897

島 直子 (SHIMA, Naoko)
国立女性教育会館・研究員
研究者番号：90630856

澤口 恵一 (SAWAGUCHI, Keiichi)
大正大学・人間学部・教授
研究者番号：50338597

松信 ひろみ (MATSUNOBU, Hiromi)
駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：00331538

(4)研究協力者

内田 哲郎 (UCHIDA, Tetsuro)
くらしの作り方研究所・研究員

井田 瑞江 (IDA, Mizue)
関東学院大学・社会学部・教授

堀 真紀子 (HORI, Makiko)
テネシー大学チャタヌーガ校・社会学部・准教授

賀茂 美則 (KAMO, Yoshinori)
ルイジアナ州立大学・社会学部・教授

余田 翔平 (YODA, Shohei)
国立社会保障人口問題研究所・研究員

三輪 清子 (MIWA, Kiyoko)
立正大学・社会福祉学部・助教
研究者番号：40757853

根岸 弓 (NEGISHI, Yumi)
首都大学東京・人文科学研究科・大学院生

近兼 路子 (CHIKAKANE, Michiko)
慶應義塾大学・社会学研究科・大学院生

吉武 理大 (YOSHITAKE, Rio)
慶應義塾大学・社会学研究科・大学院生